

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは【解説】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌によって引き起こされる感染症で、発熱と全身倦怠感、咽頭痛を特徴とします。

患者は、学童期の小児に最も多くみられます。

【感染経路】

咳やくしゃみなどによる「飛沫感染」、菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」により拡がります。

【症 状】

2～5日の潜伏期の後、突然の発熱、咽頭痛、全身倦怠感によって発症し、しばしば悪心、嘔吐を伴います。

基本的には、1週間程度で症状は落ち着きますが、菌が産生する毒素により、発疹を伴う猩紅熱や、リウマチ熱、腎炎などを生ずることもあります。

【治 療】

抗菌薬が有効である。

【予 防】

手洗いを徹底しましょう。

症状がある場合は、マスクを着けるように心がけましょう。

発熱、咽頭痛などの症状がみられた場合には、早めに医療機関を受診しましょう。



いしかわ予防戦隊うつしませんジャー